

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年3月3日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 事業所番号 | 2770901193 |
| 法人名 | 社会福祉法人 ともしび福祉会 |
| 事業所名 | グループホームともしび |
| 所在地 | 高槻市安岡寺町6-5-14 (電話) 072-687-0033 |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会 |
| 所在地 | 大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内 |
| 訪問調査日 | 平成 21年 2月 20日 |

【情報提供票より】(平成 20年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|----------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 14年 3月 1日 | | |
| ユニット数 | 2ユニット | 利用定員数計 | 18人 |
| 職員数 | 25人 | 常勤 8人, 非常勤 17人, 常勤換算 | 9.4人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|------------|------|------|
| 建物構造 | 鉄骨スレート葺 造り | | |
| | 2階建ての | 1階 ~ | 2階部分 |

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------------------|----------------|---------|---|
| 家賃(平均月額) | 50,000円 | その他の経費(月額) | 15,000円 | |
| 敷金 | 有() 円 無() | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(135,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 円 / 1ヶ月当たり 43,000円 | | | |

(4) 利用者の概要 (平成 20年 12月 1日現在)

| | | | | | |
|-------|----------|------|-----|----|-----|
| 利用者人数 | 18名 | 男性 | 5名 | 女性 | 13名 |
| 要介護1 | 6名 | 要介護2 | 7名 | | |
| 要介護3 | 5名 | 要介護4 | 0名 | | |
| 要介護5 | 0名 | 要支援2 | 0名 | | |
| 年齢 | 平均 84.6歳 | 最低 | 68歳 | 最高 | 93歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | みどりヶ丘病院、ともしび苑診療所 |
|---------|------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ベランダ近くに鹿の親子連れが訪れ、野鳥が飛び交うなど自然に恵まれた環境にあるグループホームです。隣接地では運営母体である社会福祉法人が特養や診療所、各種の介護保険サービス事業を行っています。「毎日が敬老の日であり、こどもの日である」を理念とし、「利用者の人格を尊重し、地域の人々と共生し、楽しく暮らせるよう努力し、地域の貴重な財産となるよう健全な運営を行う」との方針のもと、職員は家族や地域の数多くのボランティアから協力を得て、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。指導者研修を受講した全職員が利用者と1対1で月20回行う学習療法は、利用者も喜んで取り組まれており、気力が充実して活性化し自らすすんで散歩に出かけるようになる等、大きな成果をあげています。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、利用者は週3回の入浴を楽しみ、非常災害時の食料や水の備蓄の方法を法人として取り決め実行するようになりました。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は管理者が案を作り、回覧して職員の意見を取り入れ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動状況や行事、利用者の生活ぶり等を報告しています。学習療法の顕著な成果やボランティアの活躍ぶりについて話し合われています。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、必要に応じて介護記録も公開しています。利用者の医療や安全に関わる事項については、その都度電話で家族に報告しています。定期的に利用者の近況について担当職員が手書きした「グループホーム便り」を家族に送付しています。家族とは面会時だけでなく、介護計画作成前にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表現するように対応しています。年に2回、ほとんどの利用者家族が参加する家族会を開催し、意見交換やアンケート調査を行い、目安箱も設置して家族が意見を表出できる機会を設けています。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 隣接する特養が主催の夏祭りは地域の恒例行事となっており、多くの地域の人達が参加する交流の場となりホームの利用者も参加しています。利用者は地域の文化祭に参加したり、近隣の幼稚園児と交流をしたり、人形劇や楽器演奏、手芸、囲碁、散歩等を地域のボランティアと一緒に楽しんでいます。法人は災害時の避難協力や避難場所の提供等、自治会の要望を受け入れています。 |

2. 調 査 報 告 書

(部分は重点項目です)

| 外部 | 自己 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|----|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「毎日が敬老の日であり、こどもの日である」を理念とし、「利用者の人格を尊重し、地域の人々と共生し、楽しく暮らせるよう努力し、地域の貴重な財産となるよう健全な運営を行う」方針のもと、職員は家族や地域の数多くのボランティアの協力を得て、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向に沿うよう支援し、やさしい雰囲気です。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念を明文化し玄関及びフロアに掲示しています。職員全員が参加する定例の事務所会議や毎日の業務を通じて理念を共有し、介護サービスに反映させるよう話し合っています。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている | 隣接する特養が主催の夏祭りは、地域の恒例行事として多くの人達が参加する交流の場となっており、ホームの利用者も参加しています。利用者は地域の文化祭に参加したり、近隣の幼稚園児と交流をしたり、人形劇や楽器演奏、手芸、囲碁、散歩等を地域のボランティアと一緒に楽しんでいます。法人は災害時の避難協力や避難場所の提供等、自治会の要望を受け入れています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の外部評価で示された事項について改善が進んでいます。運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、利用者は週3回の入浴を楽しみ、非常災害時の食料や水の備蓄の方法を法人として決め実行するようになりました。自己評価は管理者が案を作り、回覧して職員の意見を取り入れ、認識の共有化を図り、サービスの具体的な改善に取り組もうとしています。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は地域包括支援センター職員、地域の代表、家族、利用者の参加のもとで、2ヶ月毎に開催しています。会議ではホームの活動状況や行事、利用者の生活ぶり等を報告しています。学習療法の顕著な成果やボランティアの活躍ぶりについて話し合われています。 | | |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者は高槻市の担当職員とさまざまな案件について相談をしています。毎月の市主催の研修会や事業者連絡会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいます。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族との面会時には、利用者の生活ぶりや連絡事項を伝え、必要に応じて介護記録も公開しています。利用者の医療や安全に関わる事項については、その都度電話で家族に報告しています。定期的に利用者の近況について担当職員が手書きした「グループホーム便り」を家族に送付しています。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族とは面会時だけでなく、介護計画作成前にも話し合い、家族が思いや希望、不満を表せるように対応しています。年に2回、ほとんどの利用者家族が参加する家族会を開催し、意見交換やアンケート調査を行い、目安箱も設置して家族が意見を表出できる機会を設けています。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の退職はありますが、職員数が多く、利用者に最も身近に接することとなる日勤中心のベテラン職員の異動は少ないため、利用者への影響は最小限に抑えられています。利用者はゆったりと笑顔で暮らしています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 運営者・管理者は資格取得を奨励し、認知症実践者研修などの外部研修は出勤扱いにし、積極的に参加を促がしています。定例の事務所会議で研修の時間を確保し、伝達研修や内部研修を行って職員のレベルアップを図っています。各職員は半年毎に「私の目標」を設定して、その達成に向け努力しています。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎月、高槻市主催で開催される事業者連絡会や研修会に参加し情報交換を行うとともに、近隣2ヶ所のグループホームに声かけを行い、職員同士の相互交流研修会を実施しています。大阪認知症高齢者グループホーム協議会にも加入し、情報を得ています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前には職員が入所施設や家庭を訪問し、利用者の家庭環境や生活歴などを把握しています。また本人や家族にホームへ来訪してもらい、他の利用者との交流の場をつくることでホーム内での馴染みの関係をつくり、家族や本人の不安を取り除き、安心して入居しサービスを受けられるよう取り組んでいます。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学び支えあう関係を築いている | 職員は利用者と共に過ごし、学び支えあう関係を目指した支援を行っています。利用者とは様々な家事や月20回の学習療法、縫い物クラブでの活動の時間等を通し、学び支えあう関係を作っています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|---|--|------|---|
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時の家族や利用者からの聞き取りで、利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握ができています。しかし、その後学習療法や毎日の生活を通じて得た利用者の意向や思い、新たな気づきの記録・整理が十分でなく、利用者一人ひとりの暮らしや楽しみ方の希望が十分には把握できていない状況です。 | ○ | 学習療法や毎日の生活を通じて得られる利用者の生活歴や暮らし方の意向など、新たな気づきを記録し、また見直し・整理を行い、日々のケアや暮らし、楽しみに生かしていくことが求められます。 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | アセスメント情報や利用者の現在の暮らし、心身の状況を把握するとともに、医師や看護師の意見、家族の意向を聞き、利用者や家族の意向・願いを反映した介護計画を作成しています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は定期的には6ヶ月毎に、また状態の変化がある時はその都度見直しを行っています。ケアマネジャーはケース記録や職員全員参加のケアカンファレンスの結果を踏まえ、3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族の意向、医師や看護師の意見も聞いて介護計画の見直しにつなげています。しかし各利用者を担当している職員のモニタリング記録がなく、今後検討することが望まれます。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用） | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 併設診療所の医師、看護師との連携により必要な医療と看護を受けています。地域のボランティアに各種の楽しみごとを提供してもらっています。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 併設診療所から医療を受けていますが、診療科目によっては入居以前からかかりつけの医療機関から引き続き医療を受け、必要に応じて通院介助も行っています。協力病院と連携し、夜間や急変時の対応についての体制も整備されています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在対象者はなく、当面ホームで看取りを行う予定はありませんが、ホーム・利用者・家族・医師と情報の共有化を図り、状況の変化を見ながら対応していく予定です。家族にも了承を得ています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重し、職員は言葉かけや態度は明るく丁寧で、やさしい雰囲気です。職員採用時には、個人情報の取り扱いについて法人と書面を取り交わしています。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の生活リズムに配慮し、利用者のペースでゆったりと暮らせるよう支えています。職員が利用者を制止したり、急かしたりする言葉はなく柔軟な対応をしています。朝食の時間や学習療法の実施について、利用者のペースを大切に支援しています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝・昼食は食材業者から届く食材を使って職員が調理し、夕食は調理済みの食材を使用しています。食事準備、下ごしらえ、盛り付け、後片付け等の一連の作業に、利用者も得意な分野で参加し楽しんでます。職員は利用者と同じものを食べながら、利用者の食べ方の混乱や食べこぼしに対するサポートをさりげなく行い、会話をしながら楽しくなごやかな雰囲気を作っています。ホームで育てた野菜が食卓にのることもあります。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 前回の外部評価受審後、ホームは体制の整備を行い、利用者は週に3回ゆっくり寛いだ入浴を楽しんでいます。また利用者の希望があればいつでも入浴は可能です。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者は生活の中で家事にそれぞれの役割を見つけ、分担し合いながら張り合いのある生活を送っています。地域のボランティアと一緒に縫い物や囲碁、散歩を楽しみ、人形劇や楽器演奏を鑑賞する等、気晴らしをしています。季節毎に鉢植えの園芸もしています。指導者研修を受講した全職員が利用者と1対1で月20回行う学習療法は、利用者も喜んで取り組まれており、気力が充実して活性化し、自らすすんで散歩に出かけるようになる等、大きな成果をあげています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 週に数回、職員やボランティアと周辺を散歩し、月2回の買い物デーにはおやつや日用品の買い物に出かけています。季節の花見や外食会、地域の行事にも出かけ楽しんでます。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 玄関のドアは日中開放しています。しかし、今は外出願望の強い利用者があり危険性が生じているため、一時的にフロアドアのみ施錠しています。職員の見守りで対応できるよう、現在早期対策を目指しています。今後対策を確立し、フロアドアについても開錠することが望まれます。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害時マニュアルを作成し、災害対策として3ヶ月毎に避難訓練を実施しています。非常・災害時のための備蓄についても、法人としての取り組みを決め、隣接する特養とホームに分散して備蓄することにし、ホームでは水と食料一日分常備することにしてあります。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一日の食事摂取量と水分摂取量を把握し記録しています。栄養バランスについては、法人特養の管理栄養士よりアドバイスを受けています。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関口には植木や季節の花、ベンチやテーブルもあり、訪ねやすい雰囲気になっています。リビング兼ダイニングルームは広くて明るく、中央には掘りこたつのある畳スペースがあり、利用者が落ち着ける居場所になっています。季節の花や家具、調度品、雑誌やレクリエーション道具、手作り作品、行事写真等が自然に飾られ、家庭的で落ち着きを感じさせる共用空間になっています。ベランダには椅子やテーブルが置かれ、すぐ前の里山雑木林には鹿の親子連れが訪れ、野鳥が飛び交い、自然恵まれた環境を楽しむこともできます。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者は和ダンス、整理ダンス、洋服掛け、収納ケース、椅子、仏壇、手作り作品、家族の写真、書籍、薄型テレビ等使い慣れた馴染みのある物を居室に持ち込み、落ち着き安心して生活を送れる空間になっています。 | | |